

# 「深い学び」の実現に向けて —学習指導要領の改訂を視野に入れて—

文部科学省初等中等教育局主任視学官

田村 学

# 前回の教育課程の基準の改訂

平成26年(2014) 大臣諮問

平成27年(2015) 論点整理

平成28年(2016) 答申

平成29年(2017) 改訂・告示

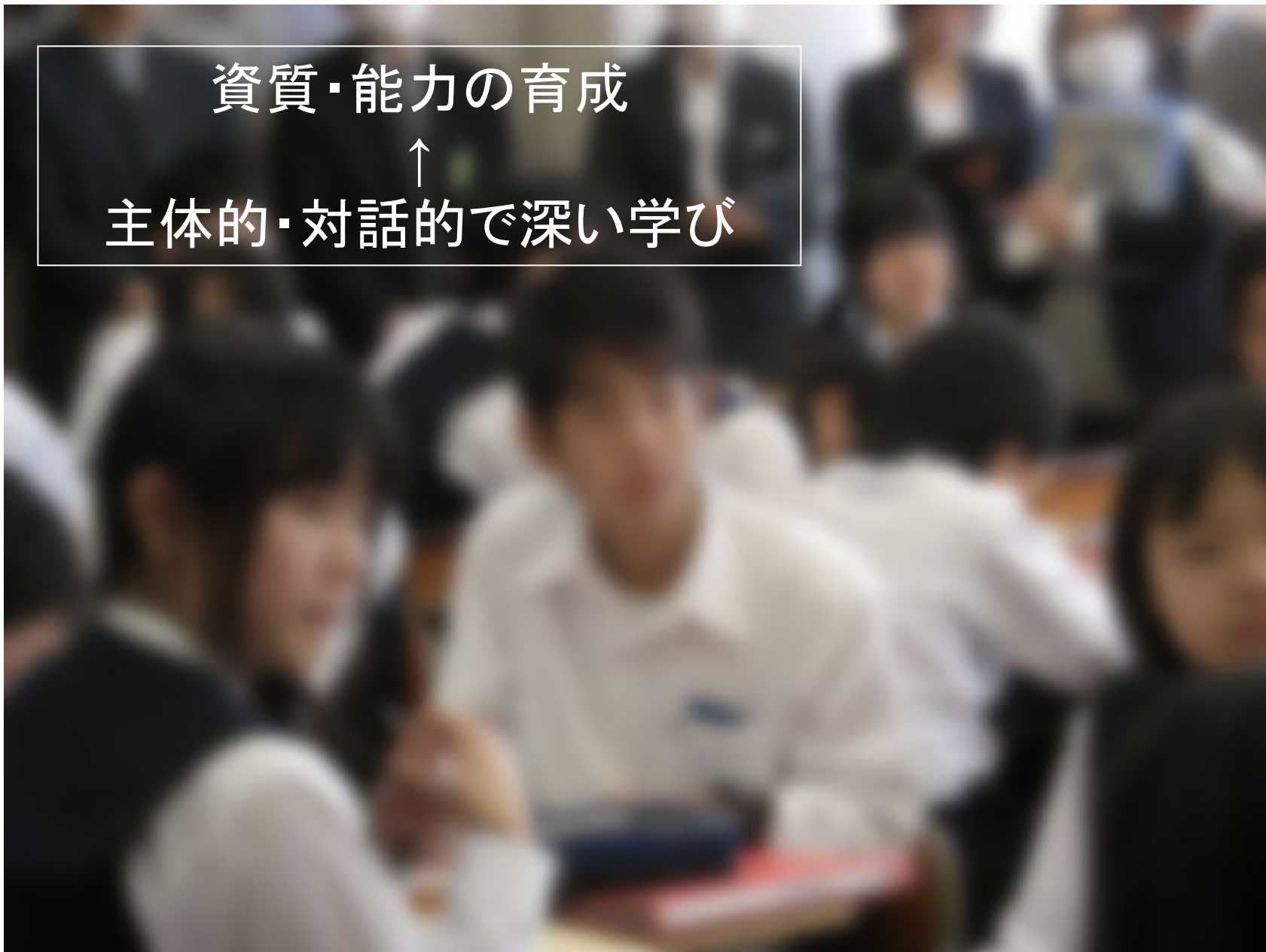





資質・能力の育成



主体的・対話的で深い学び





個別最適な学びと協働的な学び

# 今回の教育課程の基準の改訂

平成26年(2014) 大臣諮問 →令和6年度(2024) 大臣諮問

平成27年(2015) 論点整理 →令和7年度(2025) 論点整理

平成28年(2016) 答申 →令和8年度(2026)

平成29年(2017) 改訂・告示 →令和8年度(2027)

# 初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について (令和6年12月25日中央教育審議会諮問)【概要】

資料 1 - 2

## 子供たちを取り巻くこれからの社会の状況

- 不確実性の高まり（少子化・高齢化、グローバル情勢の混迷、生成AI等デジタル技術の発展等）  
→子供たちは、激しい変化が止まることのない時代を生きる
- 労働市場の流動性の高まり、マルチステージの人生モデルへの転換  
→自らの人生を舵取りする力を身に付けることの重要性
- 内なるグローバル化やデジタル化の負の側面等による社会の分断の芽への指摘  
→多様な他者と、当事者意識を持った対話により問題を発見・解決できる「持続可能な社会の創り手」を育てる必要性
- テクノロジーは変化に伴う困難だけでなく多様な個人の思いを具現化するチャンスも生み出す  
→生産年齢人口が急減する中、あらゆる資源を総動員し、全ての子供が豊かな可能性を開花できるようにすることが不可欠

## 現在の学校現場の状況

- 現行学習指導要領は、「社会に開かれた教育課程」を理念に掲げ、「何を学ぶか」だけでなく、「何ができるようになるか」を明確化し、「どのように学ぶか」の重要性を強調し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を提示
- コロナによる制約に苦しみながらも、GIGAスクール構想による1人1台端末環境も活用し、精神的な授業改善が行われてきた
- 全国学力・学習状況調査やOECDのPISA調査において地域間格差・学力格差の改善も見られている  
→我が国の初等中等教育は、質の高い教師の努力と熱意に支えられ、大きな成果を上げ続けている

## 顕在化している課題

### ①主体的に学びに向かうことができていない子供の存在

- 学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供の増加
- 不登校児童生徒、特別支援教育の対象となる児童生徒や外国人児童生徒、特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の充実とともに、多様性を包摂し、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題
- これらに向き合うことは、「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却するとともに、民主的かつ公正な社会の基盤として学校を機能させ、分断や格差の拡大を防ぎ、共生社会を実現する観点からも重要

### ②学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば

- 習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること、概念としての知識の習得や深い意味理解をすること、自分の考えを持ち、根拠を持って明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒が少ないこと、等に依然として課題
- 子供の社会参画の意識、将来の夢を持つ子供の割合等についても、改善傾向も見られるものの国際的に見て低い状況

### ③デジタル学習基盤の効果的な活用

- デジタル学習基盤(※)は、一人一人のよさを伸ばし、困難の克服を助ける大きな可能性を秘めているが、効果的な活用は緒に就いたばかり
- 我が国のデジタル競争力は国際比較でも低位であり、デジタル人材育成強化は喫緊の課題
- 「デジタルの力でリアルな学びを支える」との基本的な考えに立ち、バランス感覚を持って、積極的に取り組む必要

(※) GIGA スクール構想による1人1台端末やクラウド環境等のデジタル学習基盤

- 子供たちが社会で活躍する2040年代を展望するとき、初等中等教育が果たすべき役割はこれまで以上に大きい

→これまでのよい部分を継承し、課題を乗り越え、高等教育との接続改善や国際的な潮流にも配慮しながら、新たな時代にふさわしい在り方を構築する必要

- 教師の努力と熱意に対して過度な依存はできず、教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合う必要性

→令和6年8月の中央教育審議会答申に基づく教員の勤務環境整備と整合させつつ、「令和の日本型学校教育」を持続可能な形で継承・発展

# 主な審議事項

## 1 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方

- 生成AIが発展する状況の下、知識の概念としての習得や深い意味理解を促し、学ぶ意味や社会とのつながりが重要となる中、そうした授業改善に直結する学習指導要領とするための方策（特に、各教科等の中核的な概念等を中心に、目標・内容を一層構造化）
- 目標・内容の記載に表形式等を活用すること、学校種間・教科等間の関係を俯瞰しやすくすることのほか、デジタル技術を活用した工夫の在り方
- 重要な理念の関係性の整理（「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」、「学習の基盤となる資質・能力」等）
- デジタル学習基盤の活用を前提とした、資質・能力をよりよく育成するための各教科等の示し方
- 学習改善・授業改善に効果的な評価の観点や頻度、形成的・総括的評価の在り方（特に、「主体的に学習に取り組む態度」をはじめ観点別学習状況の把握をより豊かな評価につなげるための改善）

## 3 各教科等やその目標・内容の在り方

- 小中高等学校を通じた情報活用能力の抜本的向上を図る方策（生成AI等に関わる教育内容の充実、情報モラルやメディアリテラシーの育成強化を含む）
- 質の高い探究的な学びを実現するための「総合的な学習の時間」、「総合的な探究の時間」の改善の在り方（情報活用能力の育成との一体的な充実等を含む）
- 高等教育段階でデジタル・理数分野への学部転換等の取組が進む中での、初等中等教育段階における文理横断・文理融合の観点からの改善の在り方
- 生成AIの活用を含めた今後の外国語教育の在り方や、手軽に質の高い翻訳も可能となる中での外国語を学ぶ意義についての考え方
- 教育基本法、学校教育法等に加え、こども基本法の趣旨も踏まえた主体的に社会参画するための教育の改善の在り方
- 多くの教科・科目の構成の改善が行われた高等学校教育について、その一層の定着を図るとともに、職業教育を含めた今後の改善の在り方
- 特別支援学級や通級指導に係る特別の教育課程、自立活動の充実等を含む、障害のある子供の教育的ニーズに応じた特別支援教育の在り方
- 幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善の在り方、設置者や施設類型を問わず、幼児教育の質の向上を図る共通の方策

## 2 多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方

- 興味・関心や能力・特性に応じて子供が学びを自己調整し、教材や方法を選択できる学習環境デザインの重要性、デジタル学習基盤を前提とした新たな時代にふさわしい学びや教師の指導性の在り方
- 教師に「余白」を生み、教育の質の向上に資する可能性も含めた、子供たちの可能性が輝く柔軟な教育課程編成の促進の在り方（各種特例校制度等を活用しやすくすること、標準授業時数に係る柔軟性、学習内容の学年区分に係る弾力性、単位授業時間や年間の最低授業週数の示し方）
- 高等学校の生徒の多様性に応える柔軟な教育課程の実現のための、全日制・定時制・通信制を含めた諸制度の改善の在り方
- 不登校児童生徒や特定分野に特異な才能のある児童生徒など、各学校が編成する一つの教育課程では対応が難しい子供を包摂するシステムの構築に向けた教育課程上の特例等の在り方


## 4 教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合うことを含む、学習指導要領の趣旨の着実な実現のための方策

- 教育課程の実施に伴う過度な負担や負担感が生じにくい在り方（学習指導要領や解説、教科書、入学者選抜、教師用指導書を含む）
- 現在以上に増加させないことを前提とした年間の標準総授業時数の在り方、教育課程の実施に伴う負担に留意した上での、現代的な諸課題を踏まえた様々な教育の充実の在り方
- 新たな学びにふさわしい教科書の内容や分量、デジタル教科書の在り方
- 情報技術など変化の激しい分野において、教師の負担軽減を図りつつ最新の教育内容を扱うことを可能とするための方策
- 各学校での柔軟な教育課程編成を促進し、多様な取組の展開に資する、教育委員会への支援強化、指導主事等の資質・能力の向上の在り方
- コミュニティ・スクールを含む地域や家庭との連携・協働を促進しつつ、過度な負担を生じさせずにカリキュラム・マネジメントを実質化する方策
- 学習指導要領の趣旨・内容について、保護者をはじめ社会全体と共有するとともに、学校種を超えて一人一人の教師に浸透を促す方法の在り方

# 今回の教育課程の基準の改訂

平成26年(2014) 諮問 →令和6年度(2024) 諮問

平成27年(2015) 論点整理 →令和7年度(2025) 論点整理



平成28年(2016) 答申 →令和8年度(2026)

平成29年(2017) 改訂・告示 →令和8年度(2027)

# 次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～

主体的・対話的で  
**① 深い学びの実装**  
 (Excellence)

主に第2,4,6章  
 (生きて働く「確かな知識」の習得、資質・能力育成の具体化・深化、「好き」を育み「得意」を伸ばす、情報活用能力の抜本的向上、個別最適な学び・協働的な学び等)

**② 多様性の包摂**  
 (Equity)

主に第3,7章  
 (調整授業時数制度、裁量的な時間、個別の児童生徒に係る教育課程の仕組み、デジタル学習基盤を活用した学習環境デザイン、個別最適な学び・協働的な学び等)

**③ 実現可能性の確保**  
 (Feasibility)

主に第5,7章  
 (授業時数の適正化・平準化、教科書の精選、構造化、裁量的な時間など様々な方策による教師・子供双方の「余白」の創出、カンキョウマネジメント等)

学びをデザインする高度専門職としての教師 デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備  
 「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白 総合的な勤務環境整備

**多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに**

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、  
**自らの人生を舵取りすることができる 民主的で持続可能な社会の創り手** をみんなで育む

# 1.学習指導要領改訂の大きな方向性とは？

## 次期学習指導要領に向けた基本的な考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～

1

### 「主体的・対話的で深い学び」の実装 (Excellence)



「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じた資質・能力の育成について、一層の具現化・深化を図る

2

### 多様性の包摂 (Equity)



子供たちの多様性を包摂することで、一人一人の意欲が高まり、可能性が開花し、個性が輝く教育を実現する

3

### 実現可能性の確保 (Feasibility)



持続可能な在り方を追求し、教師と子供の双方に「余白」を創出することで豊かな学びに繋げる

学びをデザインする高度専門職としての教師

デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備

「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白

総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに



生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育む



学びに向かう力  
人間性等

どのように社会・世界と関わり、  
よりよい人生を送るか



何を理解しているか  
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる  
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

# 主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点）の関係（イメージ）

◆ 「アクティブ・ラーニング」の3つの視点を明確化することで、授業や学習の改善に向けた取組を活性化することができる。これによ



多様な子どもを誰一人  
取り残さない視点

**個別最適な学びと協働的な学び  
一体的充実**

サポートマガジン『みるみる』

<https://mext-curriculum-gov.note.jp/m/m3b4a6bc792d6>

※ 基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題が見られる場合における「主体的な学び」の視点から学びへの興味や関心を引き出すことなどが重要である。

### ＃3 「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」の関係～「全ての子供」に資質・能力の育成を図る～

【基本編①】～【基本編②】で見てきたように、「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じて、これからの社会で求められる「資質・能力」の育成を図るという学習指導要領の目指すものを、多様な特性を有する全ての子供に対して実現しようという視点が「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」です。

近年、学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」と令和答申が示す「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の関係性がどうなっているのか、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」が「主体的・対話的で深い学び」を上書きしたのかという疑問も聞かれます。この点については、あくまで「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じて資質・能力の育成を図っていく、ということが多様な特性を有する全ての子供において実現するということが出発点としてあり、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」はそのための具体的な改善の視点であることに留意していただきたいと思います。例えば、子供一人一人が個別に学ぶ場面や、協働する場面が準備されていたとしても、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」につながっていなければ、本末転倒になってしまいます。

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」が盛んに授業研究のテーマとなっていくことは歓迎されることですが、それ自体が目的化することがないよう、「主体的・対話的で深い学び」を通じた資質・能力の育成という出発点に立ち戻って考えることが大切です。

# ◆自己調整学習のサイクルや、それを促進する要素等に関する研究上の知見

参考資料①

## ○自己調整学習のサイクル

自己の学習状況を把握（メタ認知）しながら方略を工夫して学習を進める

目標の設定や、効果的に進める工夫（方略）などの計画を行い、興味や自信をもつ

遂行（学習中）

「自己調整学習」  
3つのサイクルを自律的に循環させ、学びを深める

学習結果の原因・理由や方略の効果等について振り返り、次の学習につなげる

予見（学習前）

内省（学習後）

(Zimmerman&Schunk(2001))を基に作成

自己調整学習の効果を高め、学習成果に繋がりをやすくする

## ○自己調整学習の効果を高める方略の例

参考資料⑧参照

動機づけ方略

質の高い学習を開始・継続することができるよう、自らの動機づけ（モチベーション）や感情を整える方略

学習方略

学習内容をよりよく理解し、定着させることができるよう学習中の情報処理の方法等を工夫する方略

参考資料⑨参照

メタ認知的方略

学習方略がうまく働きよりよい学習成果に結びつくよう、自身の学習過程の計画・把握・調整・振り返り等を適切に行う方略

(Usher&Schunk(2018))を基に作成

子供達の方略の工夫・発揮を支える

## ○方略の指導に関する類型

※研究では、教師による方略の直接的な教授の有効性が示されている

直接的な指導

「～しましょう」等の形で発揮させたい方略を直接的に指導

間接的な指導

「～のときはどうすればよいか」等の形で間接的に気づかせる

学習環境設定の工夫

教師による指導は行わず、子供自身が自然と方略を工夫するような学習環境を整える

(Dignath et al. (2022))を基に作成

# ◆子供が自ら学習を調整しながら学びを進めるための学習環境の工夫の例

(単元内自由進度学習を含む、自治体や学校の事例等を基に記載)

参考資料⑩参照

## 単元や題材の設計

- ・ 子供達が意欲的に取り組むことができ、全ての子供が育成したい資質・能力を育むことができるような単元や題材の設計
- ・ 単元全体の目標や内容、流れを子どもと共有することで学習の見通しの明確化
- ・ 個別・協働・一斉といった学習活動の効果的な配置

※研究では、教師による直接的な教授の有効性が示されている

- ・ 学習の見通しを持つことや学習の進捗状況の把握、学習の振り返りがしやすい学習材の開発 等

学習に必要な情報に必要なアニメーションの活用を可能とする 環境づくり 等

# 学習指導要領の構造化

# 主な審議事項

## 1 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方

- 生成AIが発展する状況の下、知識の概念としての習得や深い意味理解を促し、学ぶ意味や社会とのつながりが重要となる中、そうした授業改善に直結する学習指導要領とするための方策（特に、各教科等の中核的な概念等を中心に、目標・内容を一層構造化）
- 目標・内容の記載に表、用すること、学校種間・教科等間の関係を俯瞰しやすくすることのほか、デジタル、在り方
- 重要な理念の関係性の整理、「個別最適な学びと協働  
的

○ 生成AIが飛躍的に発展する状況の下、個別の知識の集積に止まらない概念としての習得や深い意味理解を促すとともに、学ぶ意味、社会やキャリアとのつながりを意識した指導が一層重要となる中、そうした授業改善に直結する学習指導要領とするためにどのような方策が考えられるか。特に、各教科等の中核的な概念等を中心とした、目標・内容の一層分かりやすい構造化をどのように考えるか。

- ## 3 各
- 小中  
教育
  - 質の  
間」の改善の在り方（情報活用能力の育成との一体的な充実等を含む）
  - 高等教育段階でデジタル・理数分野への学部転換等の取組が進む中での、初等中等教育段階における文理横断・文理融合の観点からの改善の在り方
  - 生成AIの活用を含めた今後の外国語教育の在り方や、手軽に質の高い翻訳も可能となる中での外国語を学ぶ意義についての考え方
  - 教育基本法、学校教育法等に加え、こども基本法の趣旨も踏まえた主体的に社会参画するための教育の改善の在り方
  - 多くの教科・科目の構成の改善が行われた高等学校教育について、その一層の定着を図るとともに、職業教育を含めた今後の改善の在り方
  - 特別支援学級や通級指導に係る特別の教育課程、自立活動の充実等を含む、障害のある子供の教育的ニーズに応じた特別支援教育の在り方
  - 幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善の在り方、設置者や施設類型を問わず、幼児教育の質の向上を図る共通の方策

## 2 多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方

- 興味・関心や能力・特性に応じて子供が学びを自己調整し、教材や方法を選択できる学習環境デザインの重要性、デジタル学習基盤を前提とした新たな時代にふさわしい学びや教師の指導性の在り方
- 教師に「余白」を生み、教育の質の向上に資する可能性も含めた、子供たちの可能性が輝く柔軟な教育課程編成の促進の在り方（各種特例校制度等を活用しやすくすること、標準授業時数に係る柔軟性、学習内容の学年区分に係る弾力性、単位授業時間や年間の最

- 現在以上に増加させないことを前提とした年間の標準総授業時数の在り方、教育課程の実施に伴う負担に留意した上での、現代的な諸課題を踏まえた様々な教育の充実の在り方
- 新たな学びにふさわしい教科書の内容や分量、デジタル教科書の在り方
- 情報技術など変化の激しい分野において、教師の負担軽減を図りつつ最新の教育内容を扱うことを可能とするための方策
- 各学校での柔軟な教育課程編成を促進し、多様な取組の展開に資する、教育委員会への支援強化、指導主事等の資質・能力の向上の在り方
- コミュニティ・スクールを含む地域や家庭との連携・協働を促進しつつ、過度な負担を生じさせずにカリキュラム・マネジメントを実質化する方策
- 学習指導要領の趣旨・内容について、保護者をはじめ社会全体と共有するとともに、学校種を超えて一人一人の教師に浸透を促す方法の在り方

# 実際の社会で活用できる資質・能力

統合された状態

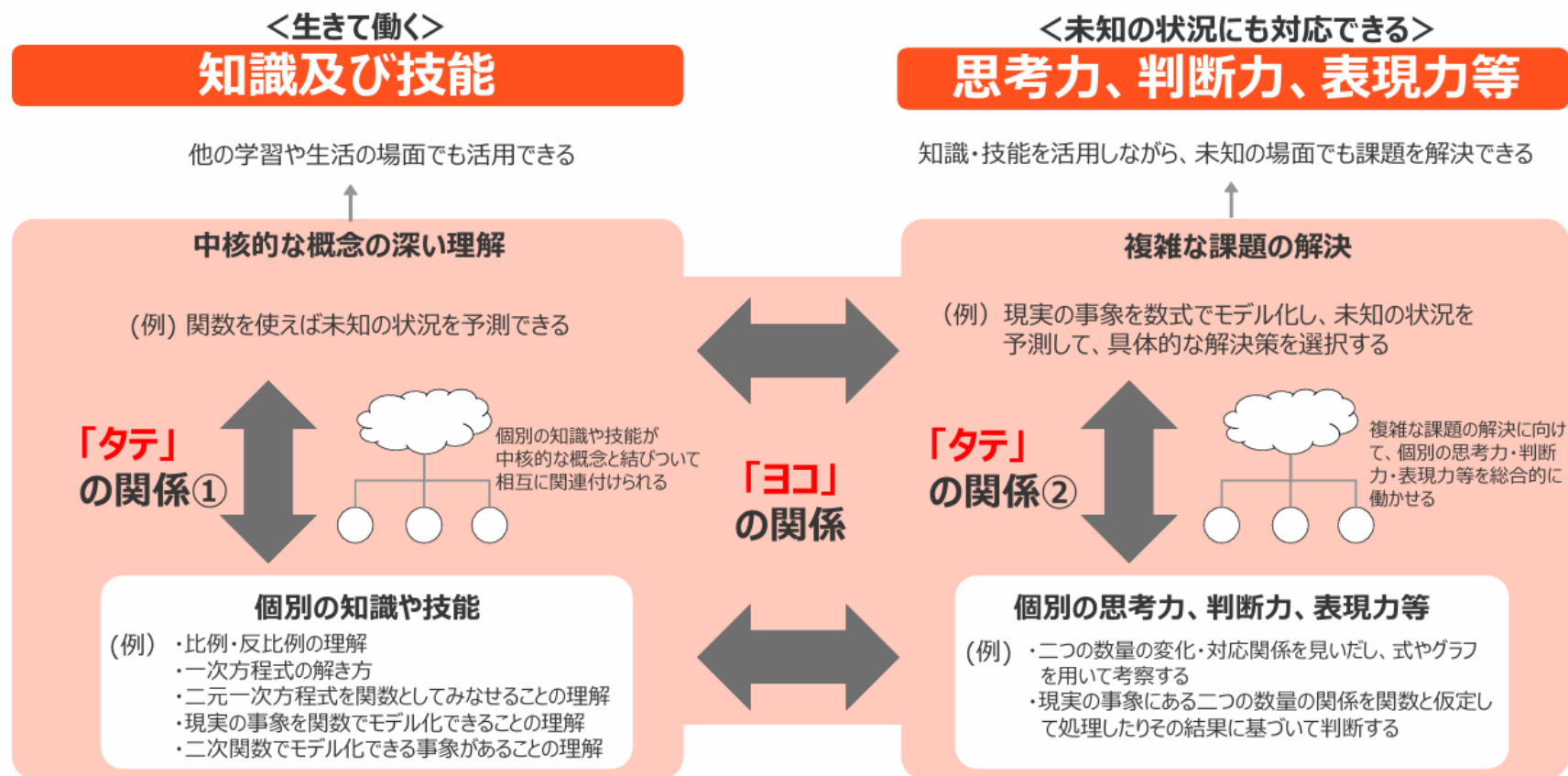
自在に発揮できる状態

事実に関する知識

方法に関する知識

# 「タテ・ヨコの関係」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要（タテの関係①）。思考力・判断力・表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（タテの関係②）
  - ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（ヨコの関係）
- こうした「タテ・ヨコの関係」を学習指導要領上で可視化することにより、資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする



# 学習指導要領の構造化・表形式化イメージ (中学校数学「数と式」の例)

資質・能力の一体的育成の可視化 (「ヨコ」の関係の可視化)

知識及び技能の系列

思考力、判断力、表現力等の系列

内容区分の中核的な概念理解へと至るために、個別の知識や技能といった資質・能力が結集・統合される。

知とスキルを結集・統合して、知識・技能を総合的に使いこなす力。実践志向のプロセスを追記。

	<p><b>中核的な概念の深い理解 (仮称)</b> この内容のまとまりを通じて理解して欲しい主要な概念等を示す</p> <p>例：数の範囲を拡張することにより、より広範な事象を一般的かつ明確に表し、計算が能率的にできるようになることを理解する</p>		<p><b>複雑な課題の解決 (仮称)</b> この内容のまとまりにおける知識・技能を総合的に使いこなして、思考・判断・表現できる力を示す</p> <p>例：数の範囲を拡張し、それらの新たな数を用いて、日常生活や社会におけるより広範な問題を解決することができる。</p>	
1年相当	<p><b>個別の知識及び技能</b> 教科の主要な概念の深い理解を獲得し、思考・判断・表現する上で必要な要素となる知識・技能を示す</p> <p>例：正の数と負の数 例：正の数と負の数の四則計算</p>		<p><b>個別の思考力、判断力、表現力等</b> 複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力・判断力・表現力等を示す。</p> <p>例：既に学習した計算の方法と関連付けて、拡張した数について計算の方法を考察し、表現する。 例：様々な事象における問題解決の場面において、新たに学</p>	
3年相当	<p>例：数の平方根 例：数の平方根を含む簡単な式の計算</p>		<p>例：具体的な場面で正の数と負の数を表したり処理したりすること 例：具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすること</p>	
(内容の取扱い)	<p><b>内容の取扱い</b> 各教科の内容を学習する上での取扱い上の留意点等を示す</p>			

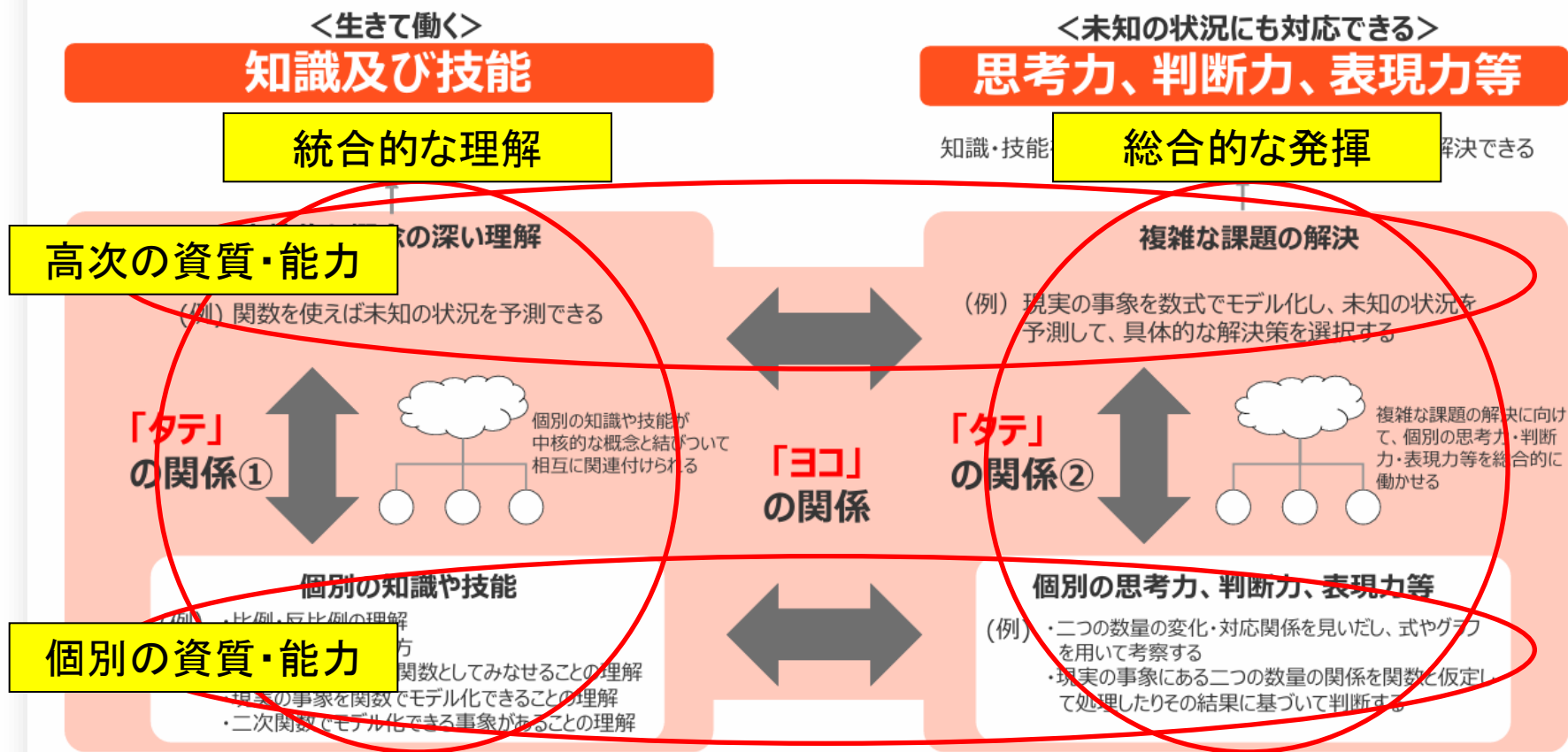
資質・能力の柱ごとの「深まり」の可視化 (「タテ」の関係の可視化)

※本イメージは現行学習指導要領を基に構造化・表形式化のイメージとして作成したものであり、実際の次期学習指導要領の構造化案は、今後、総則・評価特別部会や各WGで具体的に検討するもの。本イメージは、あくまで構造化や表形式化の意義を分かりやすくするための一例であることに留意

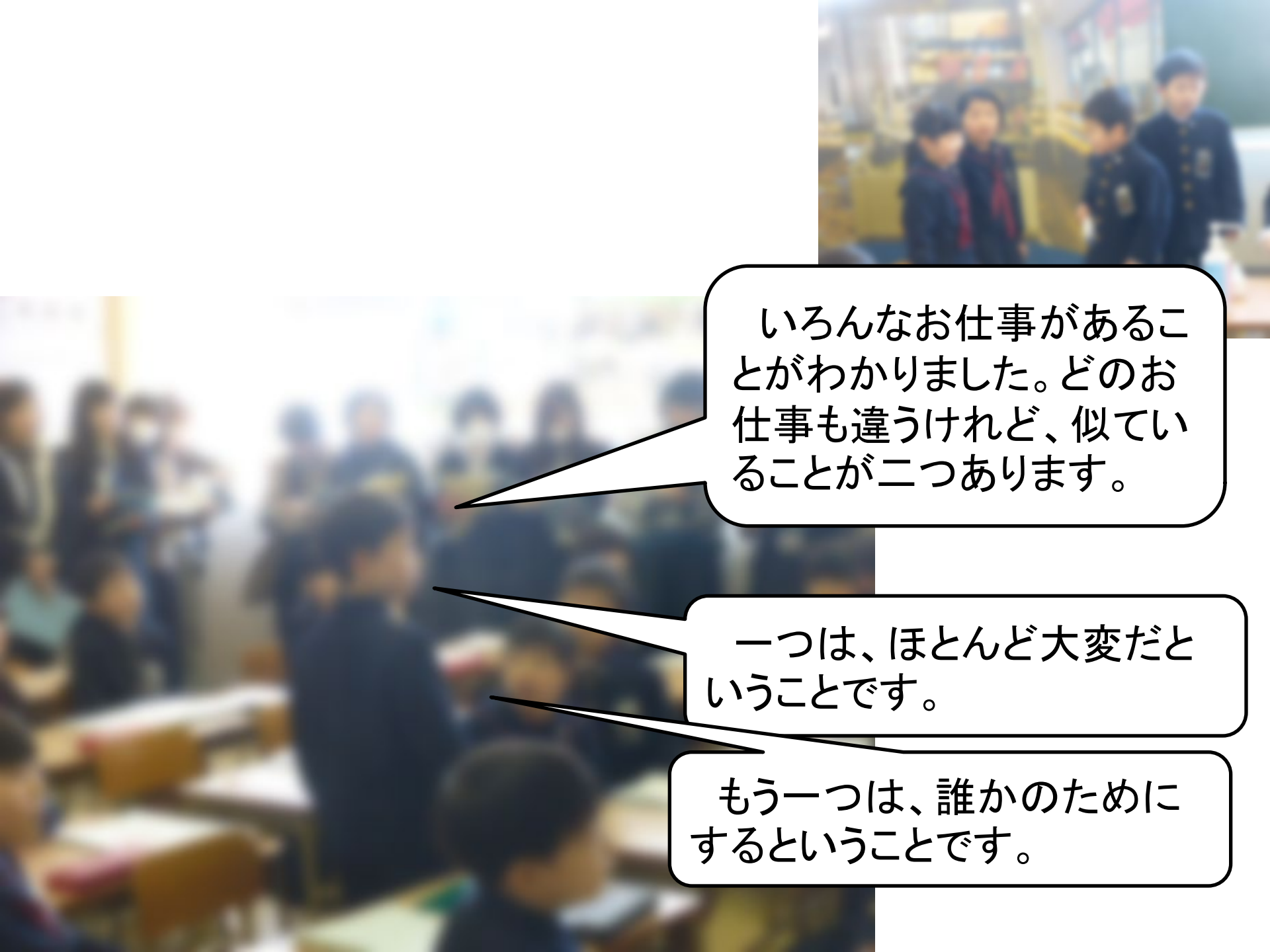
※令和7年2月17日 第2回教育課程企画特別部会 石井委員提出資料を基に文部科学省作成

# 「タテ・ヨコの関係」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要（タテの関係①）。思考力・判断力・表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（タテの関係②）
  - ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（ヨコの関係）
- こうした「タテ・ヨコの関係」を学習指導要領上で可視化することにより、資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする



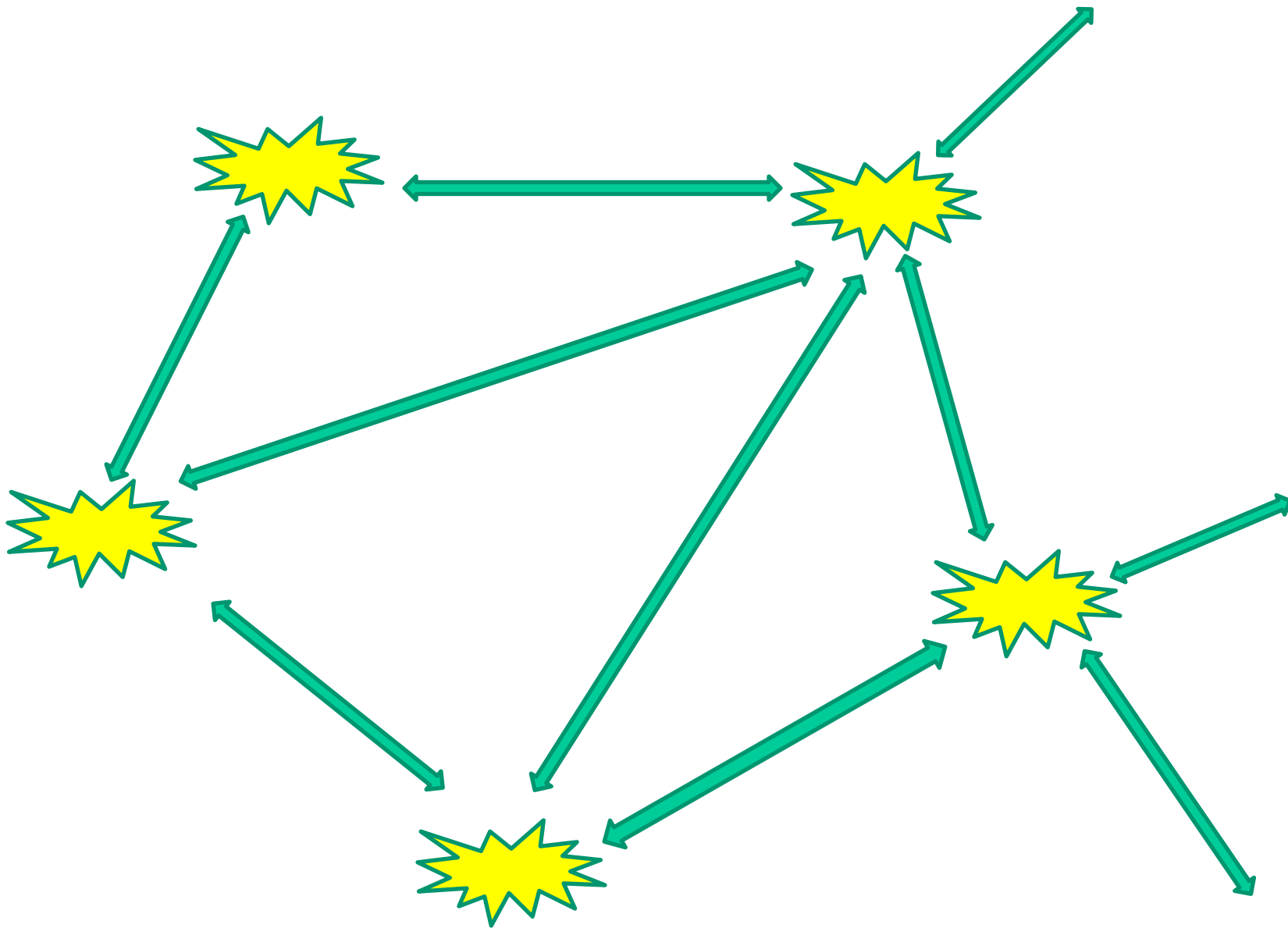
「深い学び」



いろいろなお仕事があることがわかりました。どのお仕事も違うけれど、似ていることが二つあります。

一つは、ほとんど大変だということです。

もう一つは、誰かのためにするということです。



知のネットワーク化

どのよう  
にして支配  
したか？

武家諸法度

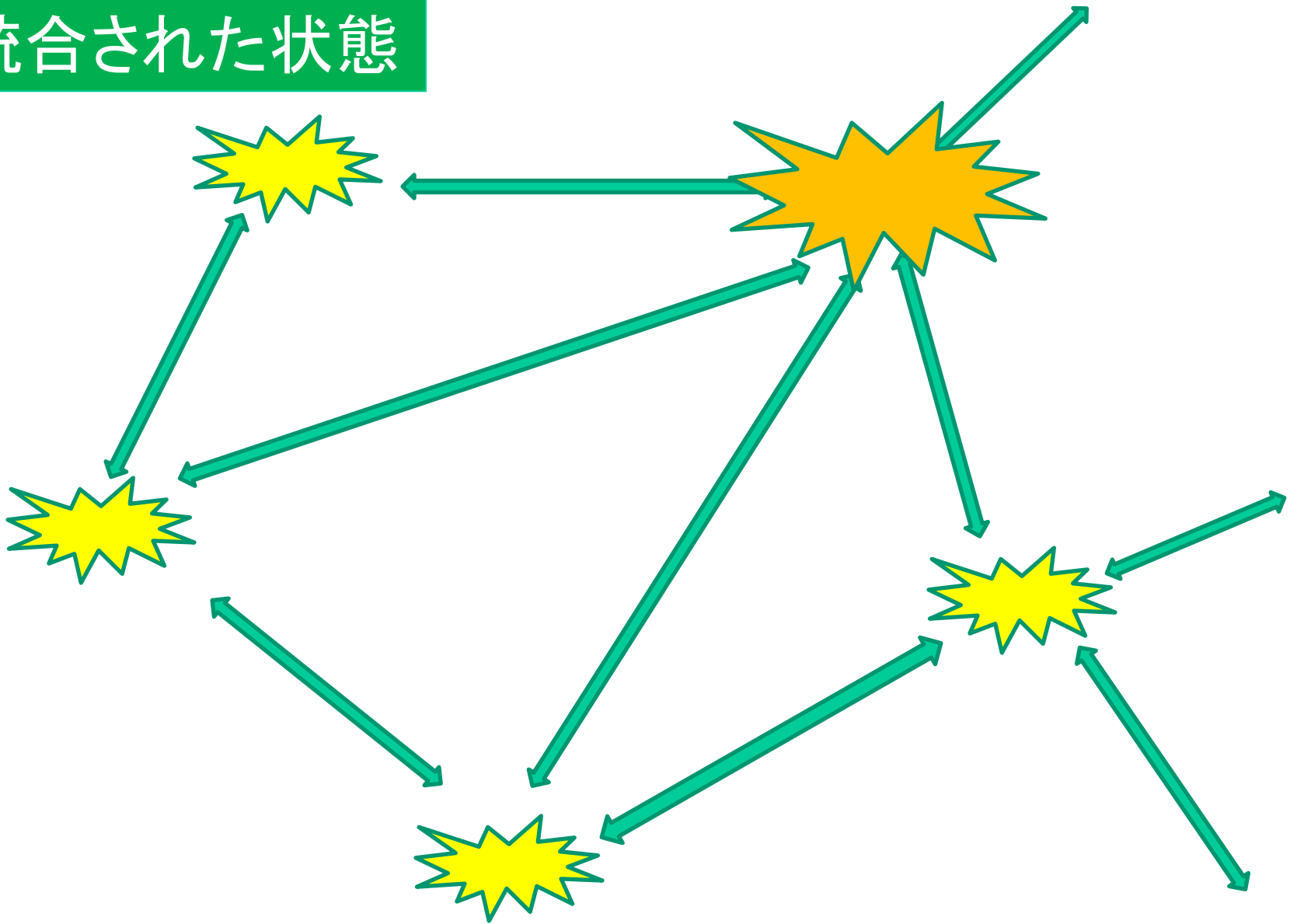
参勤交代

大名の配置

全部だ！

そうか。一つ一つではな  
くて全部が関係しているん  
だ。三つをつなげて、大名  
の財政力を弱めたんだ。

# 統合された状態



# 「ダイズを育てよう」



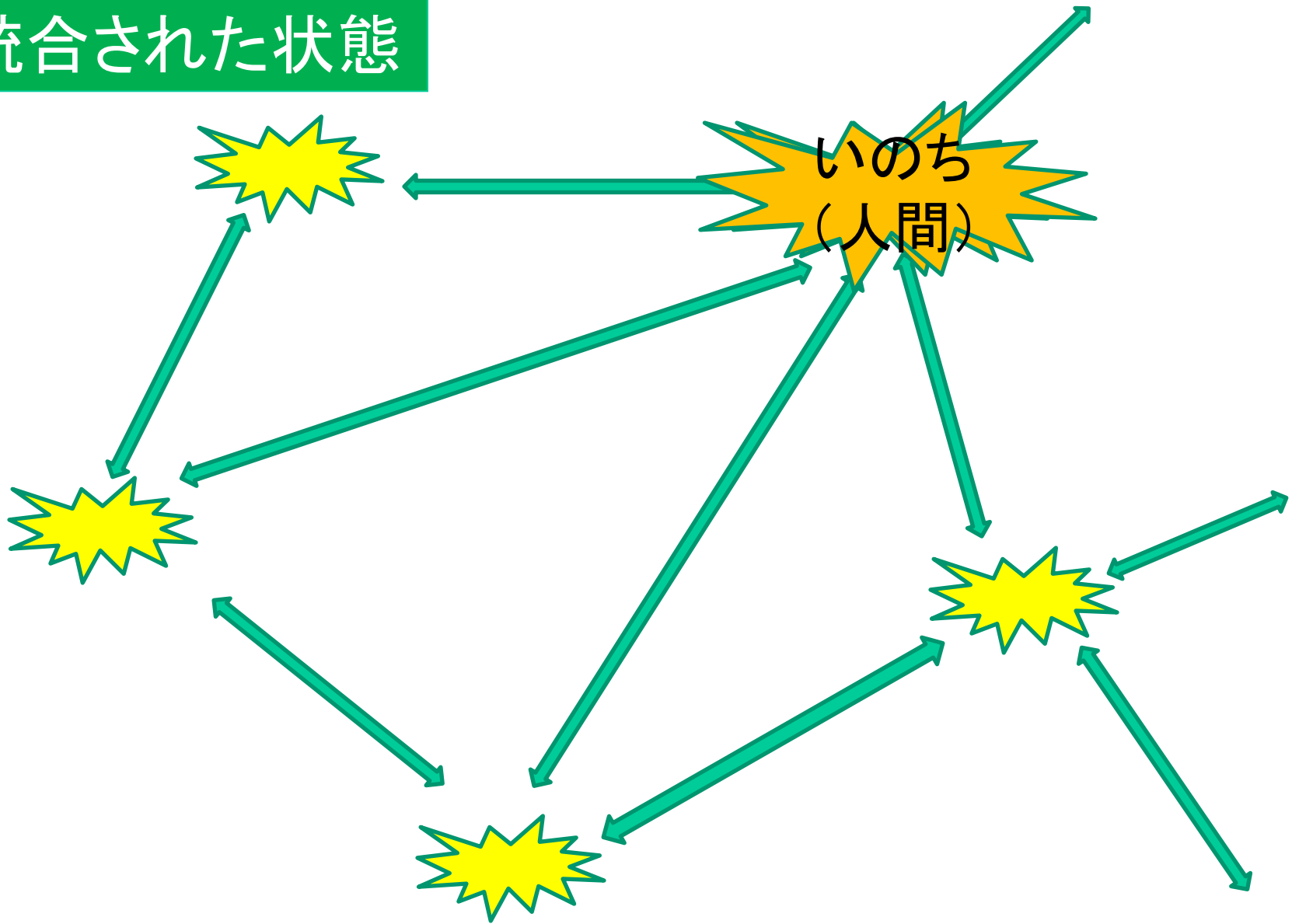
# 「ダイズを育てよう」

A男：「ダイズは生まれたときにはへそとへそとがくっついていて、へそから栄養をもらっているんだよ。」

B男：「それなら、ダイズの親は枝で、さやが子で、ダイズがその子どもだね。」

C男：「なんか、人間みたいだね。」

# 統合された状態



支え釣り込み足は、かける足の位置が大事だと思うよ。

それよりも軸足が大事じゃないかな。体が後ろに逃げたら、重心が下がって力が入らない。

サッカーだって、重心の軸がしっかりしていないと強いキックが蹴られないんだよ。

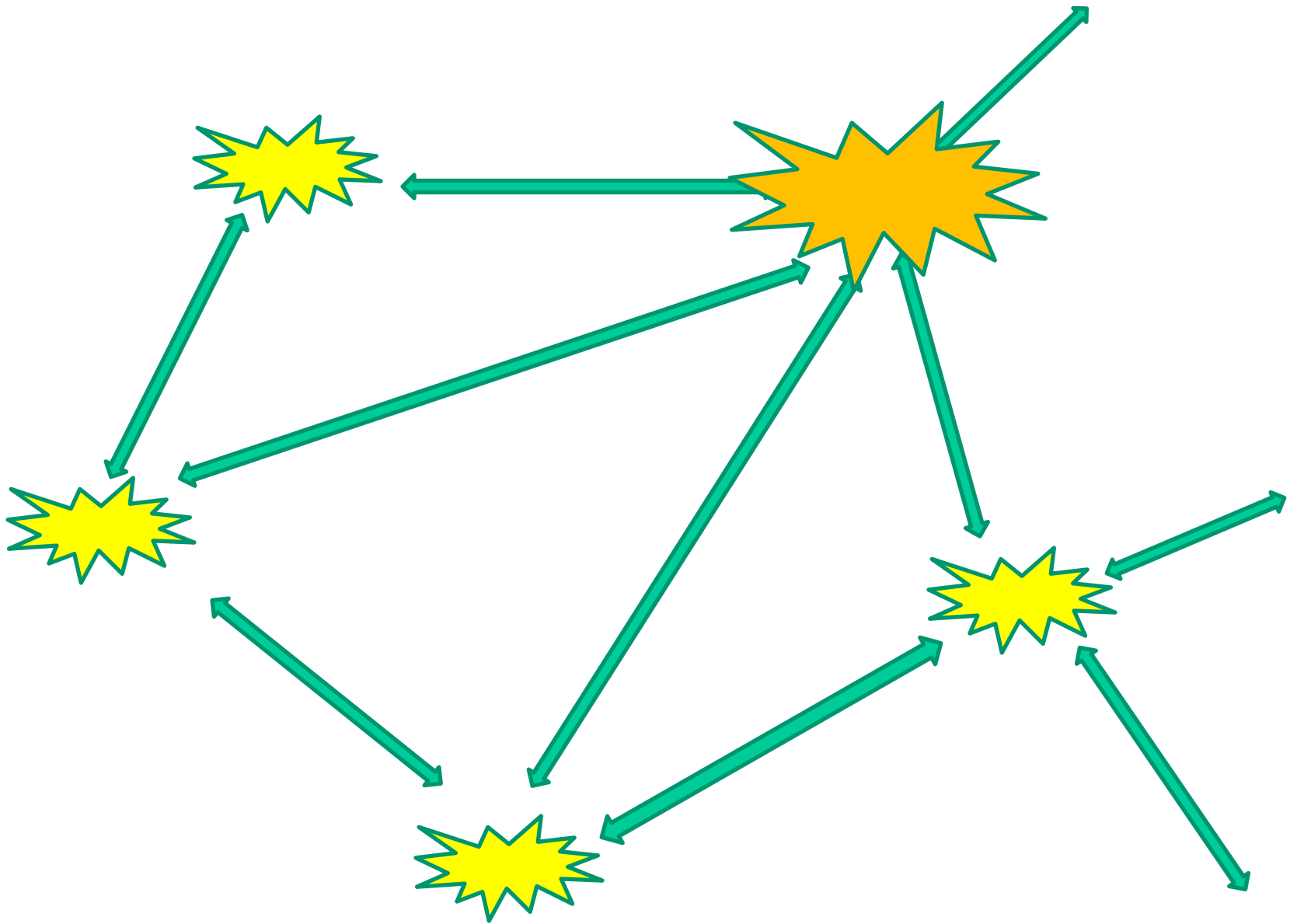
だから、重心を保つために軸足は、少し内側に向けておく必要があるはず。だって、野球の盗塁だって、どっちにも

重  
け  
これまで、受け流すことで合理的に技をかけることを学んできたけど、今日は重心、軸の大切さを考えた。どのスポーツも一緒なんだ。

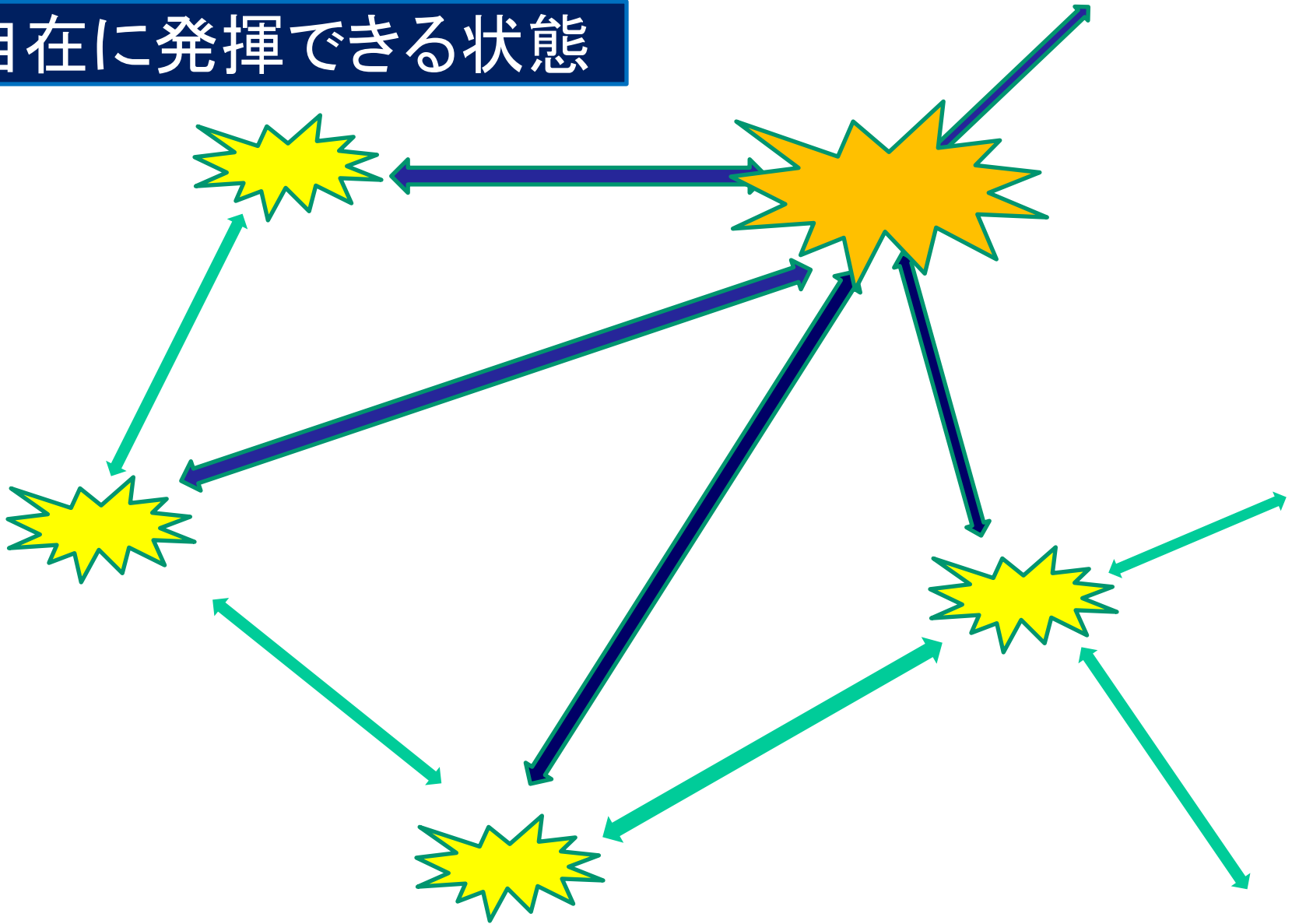
確

なるほ

そうか



# 自在に発揮できる状態



# 「タテ・ヨコの関係」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要（タテの関係①）。思考力・判断力・表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（タテの関係②）
  - ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（ヨコの関係）
- ➡こうした「タテ・ヨコの関係」を学習指導要領上で可視化することにより、資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする

＜生きて働く＞

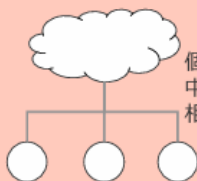
## 知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

中核的な概念の深い理解

(例) 関数を使えば未知の状況を予測できる

「タテ」  
の関係①



個別の知識や技能が  
中核的な概念と結びついて  
相互に関連付けられる

個別の知識や技能

- (例)
- ・比例・反比例の理解
  - ・一次方程式の解き方
  - ・二元一次方程式を関数としてみなせることへの理解
  - ・現実の事象を関数でモデル化できることへの理解
  - ・二次関数でモデル化できる事象があることへの理解

＜未知の状況にも対応できる＞

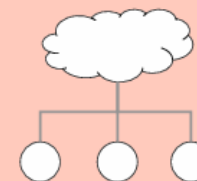
## 思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

複雑な課題の解決

(例) 現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

「タテ」  
の関係②



複雑な課題の解決に向けて、  
個別の思考力・判断力・  
表現力等を総合的に  
働かせる

個別の思考力、判断力、表現力等

- (例)
- ・二つの数量の変化・対応関係を見だし、式やグラフを用いて考察する
  - ・現実の事象にある二つの数量の関係を関数と仮定して処理したりその結果に基づいて判断する

「ヨコ」  
の関係



・二次関数でモデル化できる事象があることへの理解

# 「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働かすに深く学ぶことが重要。思考力、判断力、表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（資質・能力の「深まり」）
- ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（資質・能力の「一体的育成」）
  - ➔ こうした「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」を学習指導要領上で可視化することにより、資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする

＜生きて働く＞

## 知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

＜未知の状況にも対応できる＞

## 思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力

### 知識及び技能に関する統合的な理解

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

(例) 関数を使えば未知の状況を予測できる

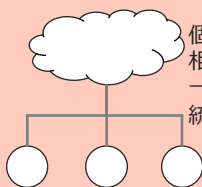
高次の資質・能力

### 思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

(例) 現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

資質・能力の「深まり」の可視化

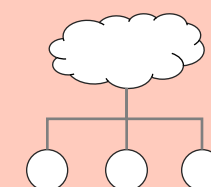


個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化されながら統合的に理解される

資質・能力の「一体的育成」の可視化



資質・能力の「深まり」の可視化



複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を総合的に働かせる

### 個別の知識や技能

- (例)
- ・比例・反比例の理解
  - ・一次方程式の解き方
  - ・二元一次方程式を関数としてみなせることへの理解
  - ・現実の事象を関数でモデル化できることへの理解
  - ・二次関数でモデル化できる事象があることへの理解

### 個別の思考力、判断力、表現力等

- (例)
- ・二つの数量の変化・対応関係を見だし、式やグラフを用いて考察する
  - ・現実の事象にある二つの数量の関係を関数と仮定して処理したりその結果に基づいて判断する

## 2. 「深い学び」を実現するための分かりやすい学習指導要領に向けた工夫とは？

高次の資質・能力をもとにした一層の構造化・表形式化・デジタル化

### 課題

資質・能力の深まりや一体的に育成するイメージが掴みにくく、「深い学び」を実現する授業づくりがしにくい。



子供たちに育む資質・能力が分かりやすく、日々の授業づくりの際に教師一人一人が使いやすい学習指導要領とするため、「構造化・表形式化・デジタル化」を一体的に進め、「深い学び」を授業で具現化しやすくする。

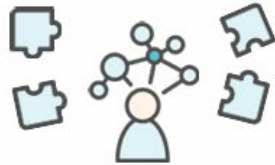
生きて働く／  
知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

高次の資質・能力

知識及び技能に関する統合的な理解

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

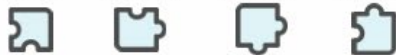


社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要

資質・能力の  
「深まり」の可視化

個別の知識や技能

知識① 知識② 知識③ 知識④



(例) 比例・反比例の理解 / 1次方程式の解き方 等

未知の状況にも対応できる／  
思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせる姿



(例) 現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

資質・能力の  
「一体的育成」  
の可視化

資質・能力の  
「深まり」の可視化

個別の思考力、判断力、表現力等



(例) 二つの数量の変化・対応関係を見つけて式やグラフを用いて考察する等

※論点整理における「中核的な概念の深い理解」「複雑な課題の解決」について、総則・評価特別部会における議論を踏まえ、「知識及び技能に関する統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な理解」（総称して「高次の資質・能力」）に更新して記載

※「高次の資質・能力」は、個別の資質・能力が深まることで至る、「統合的な理解」や「総合的な発揮」を指し示すものであり、個別の資質・能力との関係で重要性の軽重を意味するものではない。

# 「深い学び」の実現

# 深い学び

「知識・技能をつなぐ（関連付ける）」

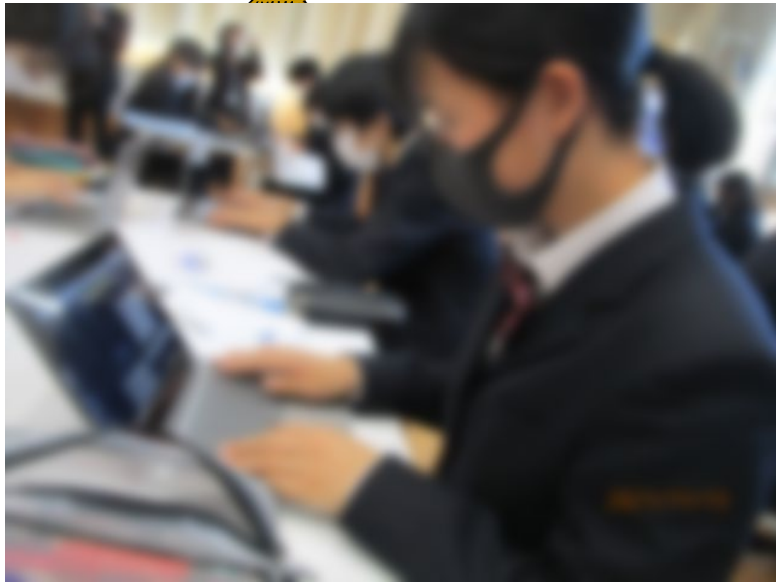
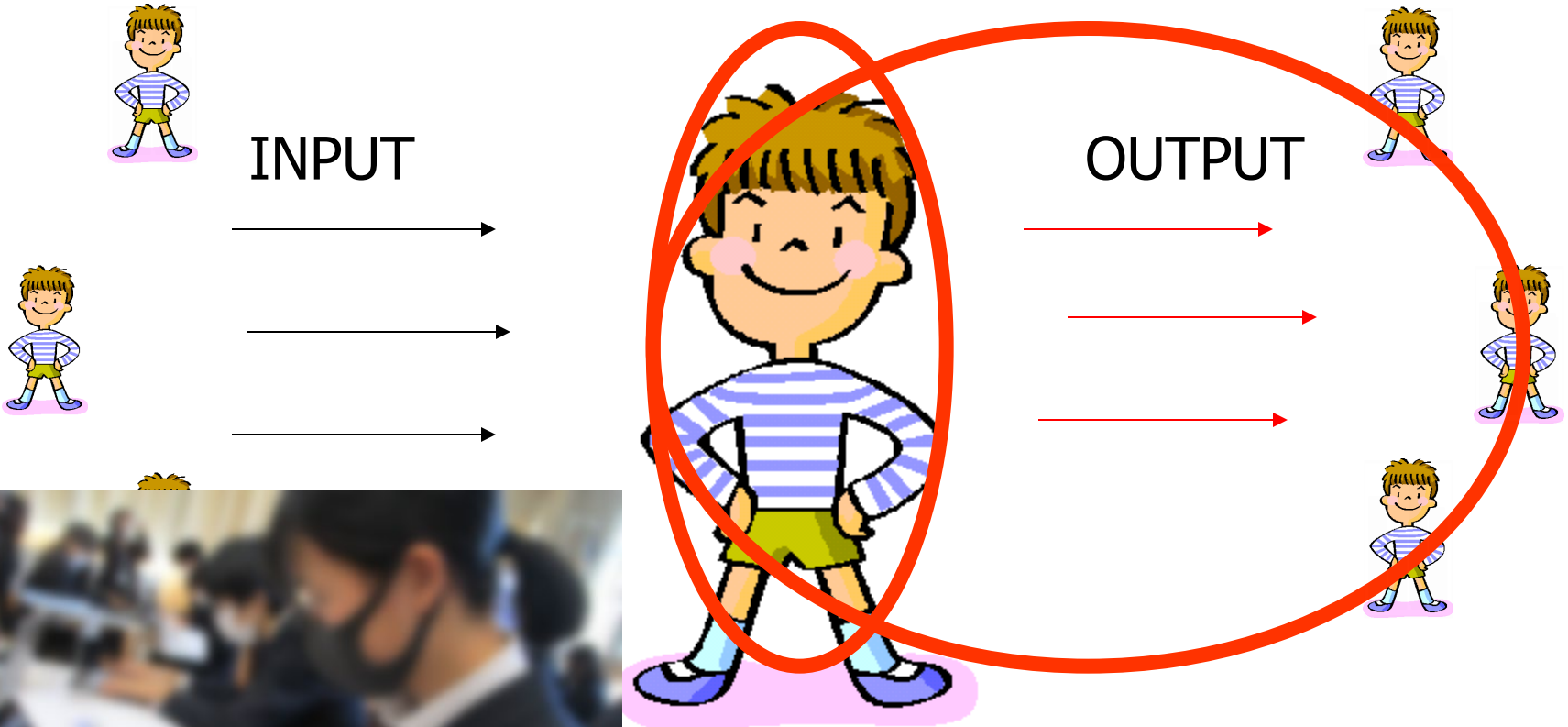


「活用・発揮」

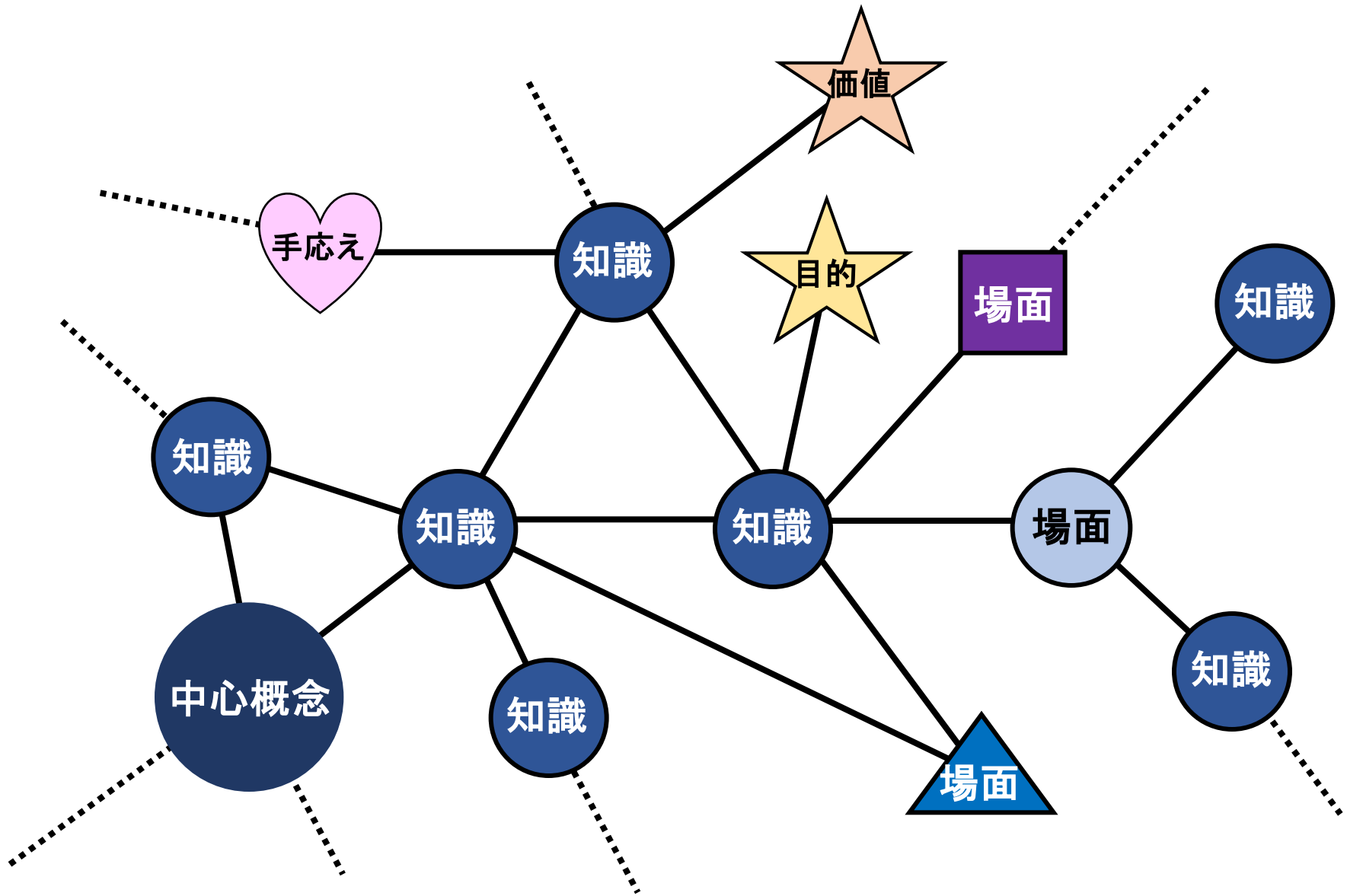
A:内化する



B:外化する



# 複雑に絡み合う「知識の構造」



## 検討項目⑤ 学習の基盤となる資質・能力

### (2) 言語能力と情報活用能力との関係性について (補足イメージ①)

- (1) で述べた情報活用能力・言語能力それぞれの資質・能力の全体像については、参考資料②及び③の方向性で各WGで議論が行われているが、現行指導要領の下でも「言語能力だけ」「情報活用能力だけ」に力をいれて研究に取り組む学校が見られるなど、「学習の基盤となる資質・能力」としての一体的理解が進んでいない実態も見られる。
- 言語能力と情報活用能力は、相補的に働くことで効果的に育成・発揮できるものと捉えることができ、その関係性を以下の通り整理することで、学校現場にとって趣旨が伝わりやすく、取り組みやすいものになるのではないか。

#### 【言語能力】

※ 今次改訂で進める単元のまとめりごとの授業づくりを助け、「深い学び」の実現に繋げるためにも、言語能力の発揮による「外化」(注)が鍵を握る。

(注) 書く、話すなどの活動を通じ、知識の理解や頭の中で思考したことなどを表現すること

握る。

(注) 書く・話すなどの活動を通じ、知識の理解や頭の中で思考したことなどを表現すること

#### 【情報活用能力との関係】

- 言語能力の基礎の上に情報技術を活用すれば、言語と言語以外の情報を組み合わせたり、情報を効果的・効率的に再構築したり、自らの身体では難しい創作などを行ったり、情報を地理的・時間的制約を超えて広く発信したりするなど、人間の思考やコミュニケーション、身体活動等を強化・拡張し、探究的な学びや課題解決に繋げていくことが可能。
  - 一方で、情報技術の活用が「外化」をはじめとする言語能力の発揮を促す活動を欠いて行われた場合、身体性に根ざした人間ならではの価値の創造や意味理解を欠いた、空疎な情報の集積・共有となる恐れもある(例：言語による外化なしに生成AIが生成したものをそのまま使うなど)
  - ※ 思考・判断・表現の過程で、言語能力を発揮するに当たっても、情報技術を活用して思考やコミュニケーション、身体活動等を強化・拡張することで、より質の高い「外化」が可能となる。
  - ※ こうした空疎な情報の集積・共有が、誤情報の拡散やそれによる誤った認識の拡大といった負の側面の顕在化を招いている
- 以上のような言語能力と情報活用能力のそれぞれの特質や相補的な性質を踏まえながら、いずれも学習の基盤として着実な育成を図ることの重要性を示す事としてはどうか。

スタディーエックス スタイル

# StuDX Style

デジタル学習基盤で加速する深い学び

プチ学習会はコチラ

お困り相談はコチラ

研修支援はコチラ

## 新着情報

### ○新着情報○

- 2025.5.23 > (特集) プロジェクトH～新たな学びのスタート
- 2025.5.20 > (特集) すべての生徒が学びを深める授業
- 2025.5.16 > (特集) GIGAスクール構想×探究学習②
- 2025.5.7 > (特集) 広く理念を共有し、創造的に実践

### 小学校

国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語活動 外国語
特別の教科 道徳	総合的な 学習の時間	特別活動							

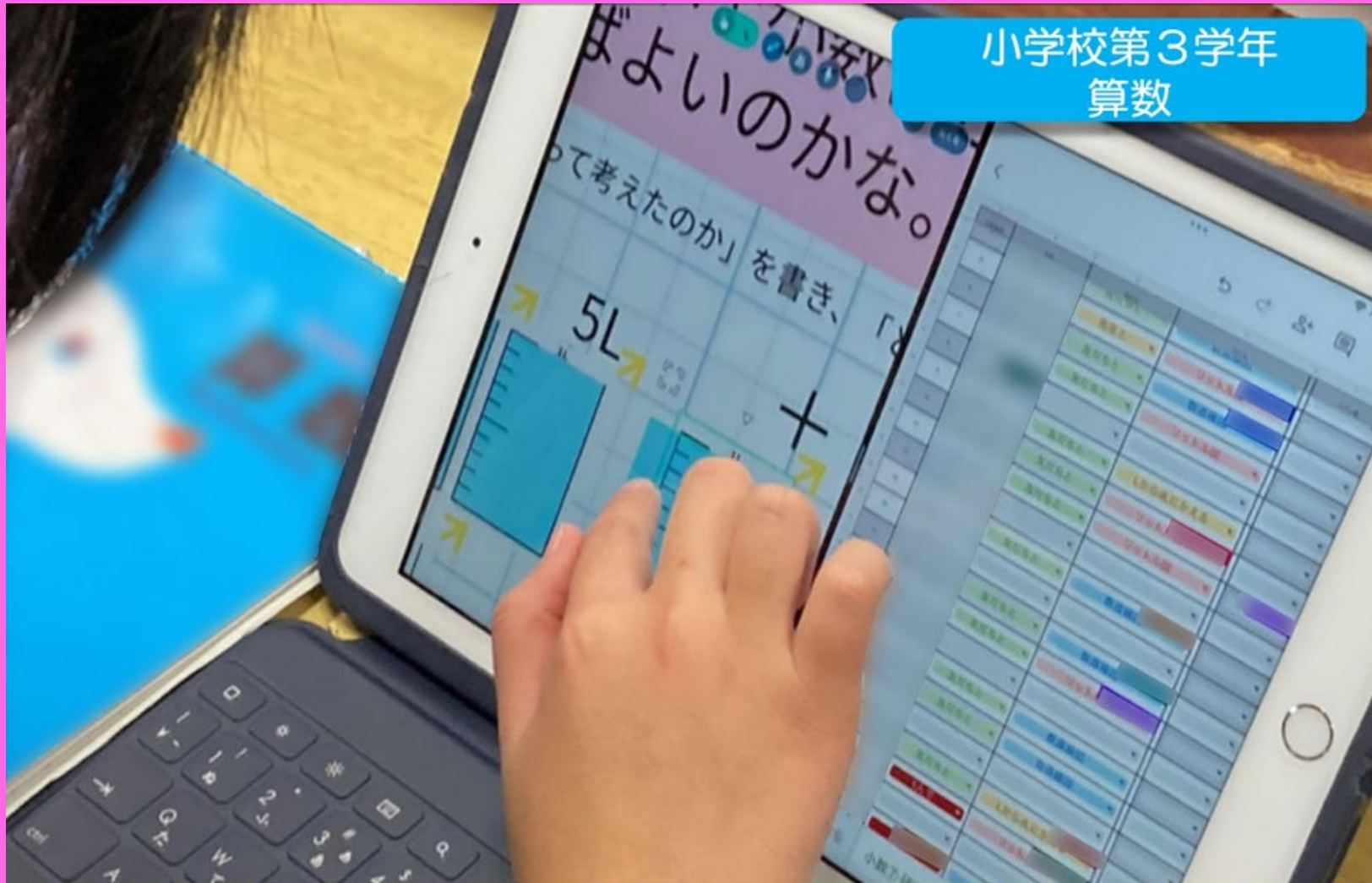
### 中学校

国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語	特別の教科 道徳
総合的な 学習の時間	特別活動								

**「GIGA×深い学び」** (全校種・全教科等)  
デジタル学習基盤で「深い学び」が  
実現する学習指導の例

# GIGA × 深い

小学校第3学年  
算数



クラウドに投稿された、リトルマス図を使った友達の考えを参考にして、自分の考えを更新する。



# 単位時間の学習指導

扱った問題は $5+3.8$ である。A児は、数字を一番右の位に揃えて筆算をして、 $4.3$ と求めた。整数の筆算と同じように、数字を一番右の位に揃えて計算したと考えられる。そこで、クラウドに投稿された他の児童の考え方を見て、A児は自分の考え方を見直していった。

$$\begin{array}{r} 5 \\ + 3.8 \\ \hline 4.3 \end{array}$$

## 【子供の「深い学び」の姿】

A児は、 $5+3.8$ の計算について、数字を一番右の位に揃え答えを $4.3$ と求めていた。クラウドで参照する中で、 $8.8$ という答えがあることを知り、他の子供のリットルマス図に着目した。 $5$ が $5L$ であり、 $3.8L$ が $3L8dL$ であることを、リットルマス図で理解できたA児は、自らの計算を修正し、整数+小数の計算の仕方を以下のように説明することができた。

「 $5$ と $3.8$ をたすには、整数のたし算のひっ算の時と同じように位をそろえることが大切だと分かりました。 $5$ と $3$ は同じ $1$ の位なので揃えます。ひっ算の時は位をそろえることを忘れないようにしたいです。整数の時もたし算とひき算は、どちらも位を揃えたので、小数のひき算でも位を揃えればできるか確かめてみたいです。」



①既習で使った重要な知識をクラウドで共有しておき、いつでも見られるようにしておく。  
リットルマス図、数直線、単位変換といった3種類のワークシートをクラウドにも用意しておき、子供たちが学習しやすくしておく。

②他の子供のワークシートをクラウドで参照することで、計算の仕方を説明するときに参考にできるようにする。

\*自分の考えを振り返り、それを文章に表すことで自らの考え方を更新していく。

## 【当該指導での「深い学び」】

A児のように、クラウドに投稿された他の子供の考え方を参照し、「何が違うのか」に気づき、「それぞれの数の意味は何か」を考え、更新しようとしている子供には、クラウドに投稿されている、既習で使った重要な知識を振り返らせ、既習との共通点にも目を向けさせることが重要である。

ここでは、「整数の筆算の仕方」などの既習で使った重要な知識をクラウドに投稿しておき、いつでも見られるようにしておく。そうすることで、新しい学習に取り組む際のきっかけとなったり、既習との違いや共通点を考えたりしやすくなる。

③子供が何人で学んでいるのか、どの考え方をして学んでいるのかをクラウドで選択させることで、教師は子供が適切な学びを進めているか確認することができる。

## 【子供の「深い学び」の姿】

A児は、 $5+3.8$ の計算について、数字を一番右の位に揃え答えを4.3と求めていた。クラウド上で参照する中で、8.8という答えがあることを知り、他の子供のリトルマス図に着目した。5が5Lであり、3.8Lが3L8dLであることを、リトルマス図で理解できたA児は、自らの計算を修正し、整数+小数の計算の仕方を以下のように説明することができた。

$$\begin{array}{r} 5 \\ + 3.8 \\ \hline 4.3 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 5 \\ + 3.8 \\ \hline 8.8 \end{array}$$

「5と3.8をたすには、整数のたし算のひっ算の時と同じように位をそろえることが大切だと分かりました。5と3は同じ1の位なので揃えます。ひっ算の時は位をそろえることを忘れないようにしたいです。整数の時もたし算とひき算は、どちらも位を揃えたので、小数のひき算でも位を揃えればできるか確かめてみたいです。」

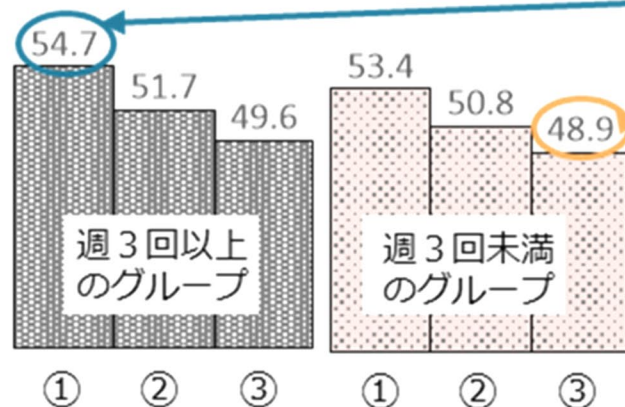
## 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果のポイント（授業改善関係）

- 課題解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、考えをまとめ、発表・表現する場面でICTを活用している。その両方に取り組んだ学校グループの児童生徒は、それ以外のグループよりも各教科の正答率が高い。

### 課題解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動

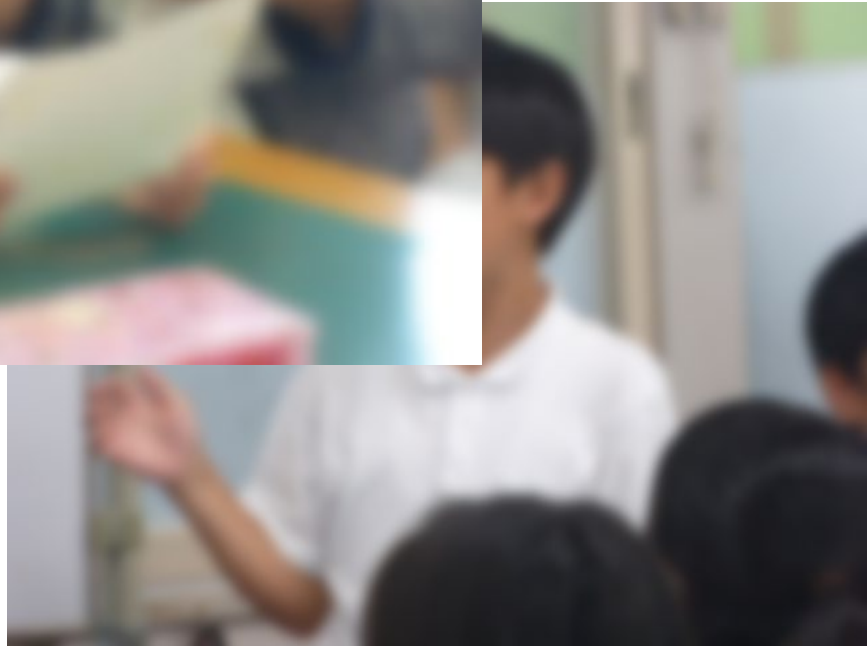
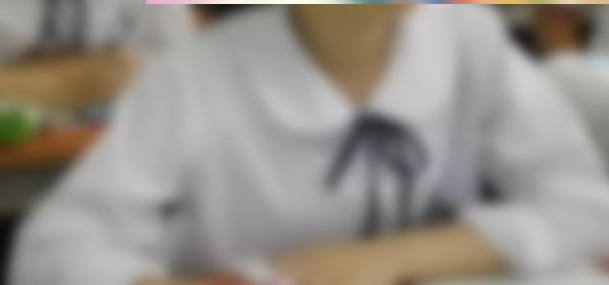
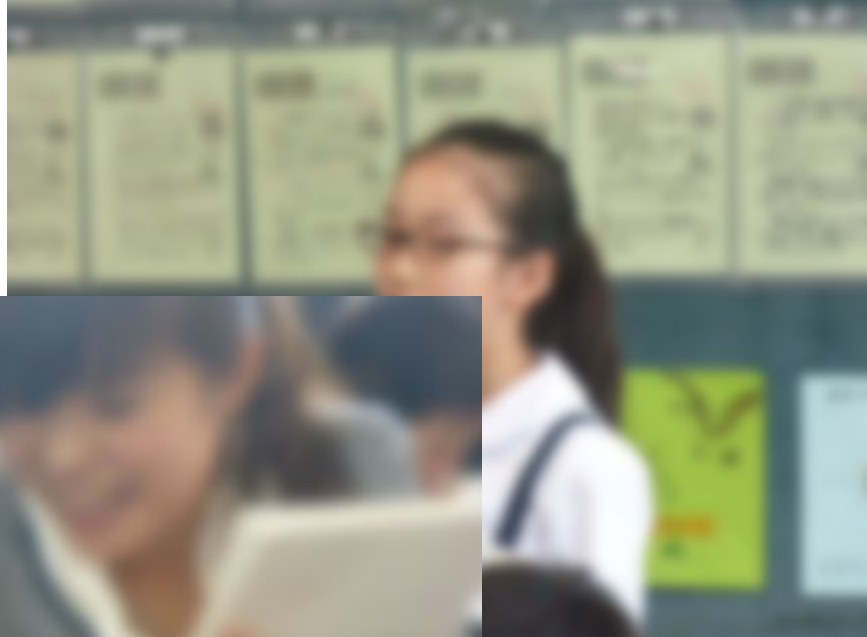
- ① 当てはまる      ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない（又は）当てはまらない

#### 中学校数学



発表場面でのICT活用頻度が週3回以上で、課題解決の学習活動の質問に「当てはまる」と回答した学校の生徒の平均正答率は**54.7%**。

発表場面でのICT活用頻度が週3回未満で、課題解決の学習活動の質問に「どちらかといえば、当てはまらない」又は「当てはまらない」と回答した学校の生徒の平均正答率は**48.9%**。



# 「深い学び」の実現に向けて —学習指導要領の改訂を視野に入れて—

文部科学省初等中等教育局主任視学官

田村 学